

提出
順番

No.

6

平成 28 年 8 月 25 日

午前・午後 10 時 05 分受領

平成 28 年 8 月 25 日

幕別町議会議長 芳滝 仁 様

幕別町議会議員 岡本 眞利子



一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問事項	質問の要旨
1. 子どもの貧困対策について	<p>厚生労働省の調査によると、平成24年の「子どもの貧困率」は16.3%と、過去最悪を更新しました。これは、18歳未満の子どものうち約6人に1人が貧困であることを意味しており、今、先進国の中で最悪レベルにあるといえます。子どもたちの健全な成長は、地域・社会の希望であり、社会全体の責務です。</p> <p>そこで、以下の点について伺います。</p> <p>① 子どもの貧困の現状についてどのように考えているのか。調査、推計などで実態の把握をされているのか。</p> <p>② 平成25年に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行され、平成26年には「子供の貧困対策に関する大綱について」が閣議決定された。さまざまな施策を講じるよう求められている中、現在本町が実施している施策の取組状況は。</p>
2. 地域で取り組む「ひきこもり」の社会復帰支援について	<p>内閣府によると、「普段は家にいるが近所のコンビニ等には出かける」、「自室からは出るが家からは出ない」、「自室からほとんど出ない」の3パターンを合わせた狭義のひきこもりは、23万6千人。これに、「普段は家にいるが自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」を加えた広義のひきこもりは、69万6千人に達するといわれています。</p> <p>厚生労働省は、ひきこもりを「さまざまな要因の結果として社会的参加を回避し、原則的には6か月以上にわたっ</p>

ておおむね家庭にとどまり続けている状態」と定義し、それが26万世帯に上ると推計しています。

近年はひきこもりの高年齢化が進んでおり、KHJ全国ひきこもり家族連合会の調べでは、ひきこもりを始める年齢は横ばい傾向にあるものの平均年齢は上昇傾向、最近は一旦社会に出てから挫折したことでひきこもる人が増え、高年齢化が進み、家族の負担は重く、より支援を難しくしていると分析されています。

また、ひきこもりを抱える親が既に高齢化しており、年金受給世帯が生活困窮世帯になる現状が増えつつあります。

そこで、以下の点について伺います。

- ① 不就労者、ひきこもりの実態調査を実施しているのか。また、相談件数は。
- ② 増え続けるニートやひきこもりの人たちの支援について、本町はどのような方向性を持ち取組をしていくのか。見解と対策は。
- ③ ひきこもりを要因とした生活困窮世帯への支援について、関係機関とどのように連携しているのか。

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。